



Pallium [パリアン] 通信

2017 年 4 月号

発行：医療法人社団パリアン

東京都墨田区立川 2-1-9 KHハウス 電話(03)5669-8302

パリアン 16 年の歴史 (3) 組織

医療法人社団パリアン理事長
川越 厚



1973 年東京大学医学部卒業。茨城県立中央病院産婦人科医長、白十字診療所在宅ホスピス部長などを経て、1994 年より賛育会病院長を務め、緩和ケア病棟を立上げる。2000 年 6 月、クリニック開業と同時に、在宅ケア支援グループ“パリアン”を設立。

体は一つでも、多くの部分から成り、
体のすべての部分の数は多くても、
体は一つであるように・・・
一つの部分が苦しめば、
すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、
すべての部分が共に喜ぶのです。
(I コリ 12 : 12, 26)

2 つの組織長の経験を参考にして

パリアンの創立理念は、「地域の人々へ、良質のホスピスケアをより多くの患者と家族に届ける」ことであった。その実現のためには日本の保険制度に則った枠組みを利用すると同時に、現行制度では何ら保障のない『新たな組織』をパリアンの中に立ち上げる必要があった。私たちが抱いた Vision は、わが国では新しい試みだったからである。

日野原善輔先生（日野原重明先生の父君）の言葉を引用すれば、Vision（幻、夢、希望）を実現して勝利（Victory）の美酒に酔うためには、冒険（Venture）が付きもの。幸いなことに、ライフケアシステム（LCS : 24 時間ケアの在宅医療組織）のメディカルディレクター、その後、賛育会の病院長を経験したことは、この冒険に乗り出す際、大いに役立った。

LCS と賛育会病院とは、確固たる組織理念を持つという点で共通しているが、組織規模には大きな差があった。会員制をとる LCS は組織自体が小規模で

あり、一方の賛育会病院は 300 床を超える大病院（就任時）であった。創立理念を持つことの重要性は、両者から学んだ。一方、「新しい事業を行う上で重要なことは、組織の柔軟性」ということは、LCS 時代に学び、賛育会病院長時代に学んだ組織の動かしがた（組織ルール）は、そこそこに大きな組織となったパリアンの運営に役立っている。

両者には、もう一つ大きな組織上の相違点がある。LCS は基本的に互助組織であり、維持費を会費で賄っている。一方の賛育会病院は、完全に医療保険制度の枠内で経営を行っている。私の夢—わが国の土壤に合ったホスピス組織を作ること—を実現するためには、組織の枠組みは LCS を手本にした。つまり、経営的な目で見れば、非採算部門を重視した組織となっている。しかしパリアンは会員制をとっていないので、経営的には保険制度の範囲内で物事を考えなければならず、その点は賛育会病院の経営管理が非常に参考になった。

骨格の中心は診療所と訪問看護ステーション

創立時（2000 年 6 月）より今に至るまで、パリアンの組織的な中心骨格をなしてきたのは、診療所と訪問看護ステーションである。一般的にこのスキームは在宅医療を行う上での基本型だが、多くの場合、二つは独立した組織になっている。一方パリアンの場合、緊密かつ迅速な連携を重視して、パリアンと



▲地域の医療・介護の専門職も参加するカンファレンス（2002 年）

いう一つの組織の中に両者を組み込んだ。このような形を取った理由は、在宅ケア開始後、患者の半数が1か月以内に死亡するという、末期がん患者の特性がある。

医療サービスと並行して、訪問介護事業には創立当初から力を入れてきた。その意図は看護と介護の協働を重視し、ケアの質を高めることにあった。意に反して、この試みは当初うまくいかなかった。両者の有機的な協働がうまくいくために必要な成熟した訪問看護が、パリアンの中に確立していなかったからだと考えている。いずれにしろ、当時の訪問看護は介護との協働を図るだけの余裕が無く、結果的に訪問介護事業は4年で中断せざるをえなかった。まがりなりにも看護と介護とがうまく協働できるようになったのは、介護事業を再開した2014年以降である。

パリアンの非採算部門。ここに私は重きを置いてきた。ホスピスケアの基準に明記されているように、ホスピスケアを一つのMovementと捉えれば、パリアンが抱える非採算部門はホスピスに必須な部門ということになる。具体的には研究・教育部門(常勤職2001年4月採用)、ボランティア部門(専任パート職員2003年4月採用)、こころのケア担当部門(パート職員2003年10月採用、現在空席)などがそれに該当する。また、倫理委員会(外部委員と常勤職員の混在)を2009年1月より立ち上げたが、外部、内部委員共、無給で協力していただいている。

診療所は当初みなし法人、訪問看護ステーション「訪問看護パリアン」は株式会社立の形でスタートした。パリアンは2008年6月、法人格(医療法人社団パリアン)を取得したが、それを機にクリニックの名称を「ホームケアクリニック川越」から「クリニック川越」に改め、訪問看護パリアンの設立母体を株式会社パリアンから医療法人社団パリアンに変更した。

「ホスピスハワイ」を参考に、工夫を重ねる

数年前、パリアンの姉妹ホスピスである「ホスピスハワイ」を訪問した時の話だが、最高経営責任者のKen Zeri氏が、通常は外部に公開しないホスピスハワイの組織、経営の詳細を見せてくれた。ホスピスハワイは、さすが米国のホスピスである。組織の細かいところまで目が行き届き、極めて効率的であることに驚いた。

翻ってパリアンの場合、組織の形は常に試行錯誤を繰り返してきた。特に効率性では、ホスピスハワイに到底及ばない。しかし反面、組織自体はかなり身軽で融通性があり、いろいろな工夫を施すには適している。

今も新たな事業にチャレンジしているが、このことについては機会を改めて詳しく説明したいと考えている。

<次号に続く>

日野原重明先生訪問の記 川越 厚 ラジオ NIKKEI「大人のラヂオ」で放送予定

去る3月3日、日野原重明先生にお会いし、先生が結核のため療養されていた広島時代の話をお伺いしました。

とは言え、話は80年以上昔のこと。当時先生は京都帝国大学の医学生、父君の善輔先生が広島女学院の院長をなさっていた関係で、先生は院長館の2階で1年以上療養なされたのでした。

いつものように話の途中で仮眠をとられていましたが、質問には的確に答えてくださり、僕が知りたかったことが明らかになりました。

僕がお伺いしたかったのは、死の病として恐れられていた結核の診断を受け、学業を中断していただ

たすら横になっていらした先生にとって、この時の経験は医師としての歩み、人間としての成長にどのような重みをもっていたのか、ということでした。

私の疑問は解決したのですが、結核を患いながら先生は死を全く考えなかったとのこと。この言葉は意外であり、日野原先生への理解をさらに深めるきっかけになったように思います。

インタビューの詳細は、近々放送されるラジオ NIKKEI の番組※でお聞きください。

※「大人のラヂオ」ラジオ NIKKEI 第1 毎週金曜日 11:35~12:30、毎週土曜日 20:30~21:25(再放送)。放送後は <http://www.radionikkei.jp/otona/> で聴くこともできます。

第6回パリアン公開講演会を開催

「愛する人たちへ…最期は家で…」

——取材者が見つめ続けた「在宅ホスピスケア」の全記録——

去る2月4日(土)、第6回パリアン公開講演会「愛する人たちへ…最期は家で…」が、鉄門記念講堂(東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟14階)において、公益財団法人 笹川記念保健協力財団の助成を受けて開催されました。当日は166名にご参加いただきました。

第I部では、1993年12月にテレビ朝日で放映された70分のドキュメンタリー番組『愛する人たちへ…最後は家で…』を鑑賞しました。番組の主な内容は、肉腫の20歳男性と直腸がんの44歳男性が在宅ホスピスケアを受けて自宅で亡くなるまでの様子のドキュメンタリーで、日本や海外の在宅ホスピスケアの当時の状況を解説する場面も含まれています。患者さんやご家族が最期まで家でありのままの生活を貫かれた姿に感激し、涙する方もいらっしゃいました。

第II部は、当番組のディレクターであった松原祐子氏(TVジャーナリスト・ドキュメンタリスト)の講演で、パリアン理事長の川越厚医師がインタビューする形で行われました。途中、ドキュメンタリーに出演したご遺族もお話くださいました。また、川越医師も当時と現在の在宅ホスピスケアの状況について解説しました。

参加者へのアンケートでは「日本人の死、看取りを考えた医療が求められている」「納得のいく生き方、死に方を貫いたらこんなに幸せなことはない」などのご感想をいただきました。

参加者が実際の在宅ホスピスの様子を動画で見ることで、末期がん患者と家族が自宅で過ごす具体的なイメージを持つことができ、今後がん患者またはその家族となった際の、選択肢の一つとして在宅ホスピス緩和ケアがあると理解していただけたと思います。

■出演者の主な発言から



▲第II部は松原氏と川越医師が対談

松原氏:当初は10分ほどの特集を作る予定だったのですが、命・生死にご本人・ご家族がしっかりと向き合っておられる姿を映像に捉えるうちに、70分のドキュメンタリーにしたいと考えるようになり、局に掛け合い許可を得ました。

私は、余命いくばくもないがん患者を家で家族だけで看取ることが本当にできるのかと最初は疑問でしたが、医療者に支えられて家で最期まで過ごされる姿に接し、ぜひ世の中に知ってほしいと思うようになりました。

土曜日の午後の枠を割り当てられ、視聴率は期待していなかったのですが、実際は10%弱の高視聴率を得て、自身も局内の者も視聴者の関心の高さに驚かされました。

ご遺族:当時、大学病院で「生きる人のための医療をやっているから」と退院を促され途方に暮れましたが、在宅医療の医師に会いに行き、家族を家で最期まで看ることができてよかった。

看取った子どもがそれまで社会でお世話になっているので、恩返しができたらとの想いで出演依頼を受けました。他の患者さんも「自分が出ることで世の中の役に立つのなら」と取材を受けたと聞いています。

川越医師:在宅ホスピスケアに関連する制度は、当時と比べると非常に整っています。医療者がやろうとすればこのような医療はできます。しかし、逝く人の医療はノウハウや技術だけではできません。医療者の死生観、生老病死への考え方が問われます。

器(制度)はできたので、内容をしっかり提供する教育をやっていかなければならないのです。人を育てる、在宅ホスピスケアの哲学を伝えることを大事にしたいですね。

講師として、中学生に「がん」の授業を行いました

訪問看護パリアン 訪問看護師 本田晶子



▲本田晶子看護師

いま、学校では「がん教育」に取り組んでいます。墨田区でも、既に一部の小学校・中学校においてモデル授業が行われています。これは、平成24年に改定された

国の「がん対策推進基本計画」に「がん教育」が追加されたことを受けたもので、子どもたち

が、がんに関する正しい知識を持つための健康教育と、その普及啓発の推進を目指した取り組みです。

授業は、小学6年生・中学3年生を対象に「がんとはどういう病気か」「予防や検診の重要性」「がん治療」「緩和ケア」といった内容や患者の体験談など、2時間にわたり行われます。実際の授業には、主に養護教諭や教科担任が当たりますが、教育関係者だけではなく、行政やがん経験者、医療従事者らが連携し、関わっています。

3月10日、私も墨田区立堅川中学校で訪問看護師として話をする機会を得ました。これまで、看護学生や医療従事者に講義をする機会があっても、中学生に授業をするというのは、私にとって初めての経験でした。15分という限られた時間のなかで、私は看護師として何をどのように伝えるべきか、正直とても悩みました。同時に、自分の中学生時代を思い返してみたりもしました。仲間とクラブ活動に熱中

していた私でしたが、ちょうどその頃、祖母のがんや死という経験から、漠然と看護師になろうと考え始めていた時期でもありました。

看護師となり、多くの忘れがたい患者さん・家族に出会いました。がんとともに生きる姿や言葉に触れ、人間のもつ力や、“今、この時”を大切に生きることを教えられる日々だと感じています。私が伝えられることは、そうした患者さん・家族の多様な体験や姿であり、命の大切さであると考えます。

当日は、がん患者さん・家族の家での様子や医療者の活動についても写真を交え、具体的に紹介しながらお話をしました。60名の生徒が真剣に耳を傾ける姿勢や眼差しを目の当たりにして、現場にいる医療者が子どもたちへじかに“伝える”ことの意義を感じました。

とはいえ、子どもへのがん教育には検討すべき課題もたくさんあります。今後、全校での実施が進められるなか、子どもへの十分な配慮や指導する教員へのサポート、体験を語るがん経験者や外部講師の確保などが求められます。2人に1人ががんに罹患するといわれる今こそ、正しい知識をもち、国民一人ひとりが自らの健康や命、死について考えることが大切だと思います。卒業を間近に控えた中学生のみなさんから、私のほうが、看護の原動力を得たひと時でもありました。

ボランティア活動予定(4月～5月)

- ・手作りボランティア(毎月第1月曜日13時～)4月3日・5月1日
- ・サロン・ド・パリアン(毎週金曜日10時15分～)4月7日・14日・21日・28日・5月12日・19日・26日
- ・訪問ボランティアミーティング
- ・命日カードボランティア(偶数月第3木曜日10時30分～)4月20日
- ・事務ボランティア(毎月第3土曜日13時～)4月21日

※ボランティア活動日は変更されることがあります。

そのときは各リーダーから連絡いたします。

■在宅ホスピスボランティア入門講座

4月15日(土)10時～15時

※詳細は最終頁をご覧ください。



▲4月の玄関飾り(芝田葉子さん制作)

パリアンスタッフ紹介

「今日の今日」の対応が求められる

「居宅介護支援事業所パリアン」ケアマネジャー

川原貴美子



▲川原貴美子
ケアマネジャー

私は、パリアンに来るまでは地方の地域包括支援センターで働いていました。当時、地元で在宅の看取りを実践されている先生の勉強会に月1回、参加していたのですが、そこで話される「最期まで本人の意志が尊重される」というケアが、自分が目指している仕事の方向性に合致していて、いつもエネルギーをもらっていました。

東京に出てきて、看取りにかかわる仕事をインターネットで調べていて知ったのがパリアンです。後で気づいたことですが、以前、上野千鶴子先生の講演を聞きに行ったときのメモに、川越厚先生の名前が書かれていて、自分でもびっくりでした。

ケアマネジャーという仕事は、簡単にいうと介護保険制度の下、介護認定された在宅患者さんのケアプランを立てることです。プランは患者さんの要介護度（要介護1～5など）によって定められたサービスの中から選びます。

介護認定には、一般的には申請から1か月くらいかかるのですが、パリアンで在宅ケアをする患者さんは、判定結果が出ていない方がほとんどですね。

でも、判定を待ってサービスを検討していたのでは間に合いません。「明日、退院されるのでベッドをご自宅に手配して」といった要望は、ここではよくあることです。

パリアンでは、患者さんを医療と介護の連携でケアします。医師が訪問診療に行き、看護師が訪問看護を、そして介護用品などの手配をケアマネジャーが、またヘルパーやボランティアも入って、チームでケアをするのです。ご自宅をお訪ねする訪問看護師さんなどから、患者さんの急な変化に見合った介護用具の要望が上がってくることも少なくありません。こんなときも迅速な対応が求められます。

先日、入院中の末期がんの患者さんが自宅を希望していると、病院から連絡が入りました。そこで、訪問看護師と病院にお伺いして、病状や必要な福祉用具などの打ち合わせをし、あわただしく在宅での準備を始めたのです。でも、その方は家に帰ることなく亡くなりました。これは稀なケースでしたが、パリアンでケアをする患者さんは末期の方がほとんどなので、自宅に戻られても、いつ容態が急変するかわかりません。ですから、パリアンでの仕事は「今日の今日」という意識がとても大切だと思っています。

退任にあたって 田伏弘行医師

昨年春にパリアンに着任し、あっという間に月日が流れましたが、私の当初の予定通りこの春で退職させて頂くことになりました。

パリアンに来るまでは病院勤務のみでしたので、慣れないことの連続でした。特に痛感したのは、病院の医療と在宅の医療は全く異なるということでした。病院時代は主治医として専門的な内容も含めて、ほとんど一方的に説明し医療を行っていましたが、在宅医療ではその方法は全く通用しないことを学びました。死が間近であるがん患者さ



▲研修報告会后、田伏医師（前列中央）を囲んで

んの「生きる」ことを支えることが最も大事だからです。そのためには患者さんだけでなく、ご家族も含めた在宅ホスピスケアの提供や、病院医療以上に医師以外のスタッフとの連携が重要であることも学びました。これらは病院を辞めてすぐに開業していたら絶対に気付いていなかったはずなので、私にとってはかけがいのない学びと今後の礎となりました。

また在宅ホスピスケアは様々な患者さんとご家族に携わることで、自分自身も多くを学び成長させて頂けることも、私にとっては新しい気付きでした。それぞれの人生や死への想い、病気の受け止め方は十人十色であり、その人に合った対応が求められるため、私も一人の人間として鍛えて頂けることも、やりがいにつながっていました。

短い期間でしたが多くの患者さんとお別れをする中で、私のお迎えが来た後の約束もしました。

フランス料理のコースを食べに行くこと・毎日の晩酌にお付き合いすること・旅行に一緒に行くこと・職人であった患者さんに弟子入りすること・井戸端会議に参加すること・話し相手としてひたすら聞き役に徹すること・お孫さんやひ孫さんの結婚相手になること!等々、私はあの世に行っても当分は休ませてもらえそうにありません……。

今後は地元の和歌山に戻り、在宅クリニックを今年 6 月に開業します。パリアンも含め今までに学んできたことが試されることとなります。和歌山の在宅医療はまだまだ発展途上のためやるべきことはたくさんあり、私自身もまだまだ未熟であるため間違いなく多くの困難に直面することでしょう。パリアンに着任する以前より和歌山で仲間を募り勉強会を重ねてきましたので、その仲間たちとも協力しながら微力ですが和歌山の地域医療に貢献することを目指したいと思います。

パリアンスタッフの講演等予定

講演者	開催日時	会	演題	会場
川越博美	5 月 9 日 19:45	国際医療福祉大学 乃木坂スクール	地域包括ケアの探求 ～訪問看護の立場から～	国際医療福祉大学大学院 東京青山キャンパス
川越博美	5 月 20 日 13:30	市民の集い「在宅医療」 勉強会（一般社団法人セル フケア・ネットワーク 主催）	「在宅医療」をご存じですか？ ～在宅での看取りを支える在宅医 療～	千代田区立高齢者総合サポ ートセンターかがやきプラ ザ
川越 厚	6 月 1 日 14:00	愛恵福祉支援財団主催 公開講座	穏やかな死を迎えるために 死を受けとめること	北とぴあカナリアホール
川越 厚	6 月 1 日 19:00	横浜・川崎がん病病連携 会	がん患者に対する病診連携～緩和 ケア充実診療所の歴史的意義～	横浜市立みなと赤十字病院 がんセンター

■フェイスブック (<https://www.facebook.com/hospice.pallium>) でも講演予定を随時紹介しています。

●川越厚医師出演番組

ラジオ NIKKEI のホームページで、川越厚医師が出演した番組をオンデマンドで聴くことができます。

●大人のラヂオ

(ラジオ NIKKEI 第 1 金曜日 11 時 35 分～12 時 30 分)

<http://www.radionikkei.jp/otona/>

●日曜患者学校

<http://www.radionikkei.jp/inochi/>



▲4 月の花飾り（芝田葉子さん制作）